

『大事な話』 作…ポチ子

男1 「生ビール追加で1つ。珍しいな、お前から飲みの誘いだなんて。なんか話があんじゃねーのか？」

男2 「ふいうふあふいふえふあふおえふあ」

男1 「口に唐揚げ頬張ったまま喋んなよ。なんにも聞こえなかったぞ」

男2 「(ビールを飲み干す) なんか家燃えてさー。」

男1 「とんでもなく重い話するじゃねーか。どういふこと!? 家が? いつ?」

男2 「昨日。」

男1 「やば。昨日って昨日じゃん。あ、おれ、何言ってるんだ? 家族は? 嫁さんは大丈夫だったのか?」

男2 「ああ、嫁? 嫁は浮気相手とホテルに泊まってたみたいで無事だったよ。失ったのはローンがあと25年残ってた家だけ。」

男1 「家だけじゃねーな、失ったの。」

男2 「嫁がコタツつけたままホテルに行って、そのコタツから出火したんだとよ。お前もコタツには気をつけろよ。コタツは全てを奪うぞ。」

男1 「コタツじゃない気がするぞ、全てを奪ったのは。じゃあ今お

前どこにいるんだよ、家燃えたわけだろ？」

男2 「ああ、実家。」

男1 「実家？お前の実家、神奈川だろ？職場から遠くて大変じゃね。」

男2 「大丈夫、大丈夫。会社、クビになったから。」

男1 「は？」

男2 「会社の上司がさ、エロサイトにハマって、会社のパソコン、ウイルスだらけにしたんだよ。んで、外部に顧客の個人情報
が洩れちゃってさ。それが何故か、上司じゃなくて、俺のせ
いになってってさ。気づいたらクビだよ。」

男1 「それが？」

男2 「1週間前。」

男1 「お前、厄年なのか？」

男2 「初詣のおみくじは大吉だったよ。」

男1 「そこで運使い果たしたんだな、きつと。俺は止めたんだ
ぞ、お前が家買う時。まだ、早いんじゃないかって。」

男2 「俺もまさか2年で燃えるとは思ってなかったよ。」

男1 「嫁さんとは離婚か？」

男2 「多分。」

男1 「はあー。．．．しょうがねえ、今日は俺のおごりだ。たんと飲
めよ。」

— 終わり —